



1:12 そこで、使徒たちはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に歩くことが許される道のりのところにあった。

1:13 彼らは町に入ると、泊まっている屋上の部屋に上がった。この人たちは、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党員シモンとヤコブの子ユダであった。

1:14 彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心一つにして祈っていた。

1:15 そのころ、百二十人ほどの人々が一つになって集まっていたが、ペテロがこれらの兄弟たちの中に立って、こう言った。

1:16 「兄弟たち。イエスを捕らえた者たちを手引きしたユダについては、聖霊がダビデの口を通して前もって語った聖書のことばが、成就しなければなりませんでした。

1:17 ユダは私たちの仲間として数えられていて、その務めを割り当てられていました。

1:18 (このユダは、不義の報酬で地所を手に入れたが、真逆さまに落ちて、からだが真っ二つに裂け、はらわたがすべて飛び出してしまった。

1:19 このことは、エルサレムの全住民に知れ渡り、その地所は彼らの国のことばでアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるようになっていた。)

1:20 詩篇にはこう書いてあります。『彼の宿営が荒れ果て、そこから住む者が絶えますように。』また、『彼の務めは、ほかの人が取るように。』

1:21 ですから、主イエスが私たちと一緒に生活しておられた間、

1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともした人たちの中から、だれか一人が、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」

1:23 そこで彼らは、バルサバと呼ばれ、別名をユストというヨセフと、マツティアの二人を立てた。

1:24 そしてこう祈った。「すべての人の心をご存じである主よ。この二人のうち、あなたがお選びになった一人をお示してください。

1:25 ユダが自分の場所へ行くために離れてしまった、この奉仕の場、使徒職に就くためです。」

1:26 そして、二人のためにくじを引くと、くじはマツティアに当たったので、彼が十一人の使徒たちの仲間に加えられた。

聖霊を受けた人々によって神様の働きがいかに広がっていったか…。それが使徒の働きのテーマですから、まずはどのようにして聖霊を受けたかが記されています。そえは現代の教会にも当てはまることです。

まずはイエス様の言いつけどおりに聖霊を待ち望みました。聖霊を求めること、これが今も教会に求められていることです。

そしてどのように待っていたかという、それは祈ったのです。心を合わせて祈りました。「2人でも3人でも心を合わせて祈るなら」とイエス様は言われました。心を合わせるためには、何といても一緒に集まることです。

さらには、群れの形式を整えることです。12というのはイスラエル全部族の数を表しますが、

ユダが脱落したことで、使徒の数が11になってしまいました。またユダは会計係りをしていましたから、その係りも必要です。くじを引いたのです。もちろん祈って。

以上は教会でも必要なことです。そしてその過程で一番大切なことは、みことばに沿って出来事を解釈し、みことばに従って行動しているということです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

